

○聖母幼稚園の先生方、お元気ですか？毎日届く園長先生からのメッセージ、いつも楽しみにしています。ありがとうございます。今日は卒園式のDVDを見ながら、楽しく過ごした幼稚園での生活を懐かしんでいました。幼稚園がお休みになったあの日から、季節も移り変わり、3か月が過ぎようとしています。この生活が始まった当初、私は、Aさん最後の1か月を精一杯過ごさせてあげたかった悔しい気持ちがいっぱい、園長先生からの暖かいメッセージを見るたびに、涙する毎日でした。先の見えない状況下のなか、先生方が一生懸命考えてくださり、3月25日にみんなで卒園することができました。感謝の気持ちでいっぱいです。4月に入り、小学校に入学したかと思えば、また休校になりましたが、ふたりの兄弟はお互いこの生活をエンジョイしているようです。Yは毎朝、今日1日の過ごしを紙に書き、弟の予定まで立て、その通りにコツコツと生活を送っています。

弟のSは、毎日お兄ちゃんがいることが嬉しいようで、にいにいにこと追いかけて回すのに大忙し。もちろんケンカも日常茶飯事。いまはそとふたりの様子を見守り、必要なときにだけ声をかけるようにしています。最近少し困っていることがあります…コロナ自粛が緩和されつつあるなか、小学校の準備登校も決まりましたが、Yは不安になってきたようです。毎晩寝る前に泣き出し、幼稚園のお友達に会いたい…ドッチボール交流戦やりたかった…いつ草津カトリックのお友達は遊びにきてくれるの？…今更なにを言い出すかとびっくりしましたが、彼の中ではまだ一年生になる心の準備ができていないのだと気づかされました。聖母幼稚園の先生方だったら、どのようにお声掛けされるのかなあ。どうしたらYが安心して学校生活を楽しくしてくれるのかなあ。これから学校再開までどう過ごしているかと考える日々です。まだまだ今まで通りの生活に戻るには時間がかかりそうですが、神様がお与えくださったこの貴重な時間を大切に、こどもの心に寄り添いながら過ごしていきたいと思っています。また大好きな聖母幼稚園の先生方、お友達に笑顔で会える日を信じて。

○休校の要請が出されたとき、頭が真っ白になりました。Aさんの大切な3月がなくなる…？先輩お母さんたちから分かち合いの席で聞いていた、Aさんの姿。「本当にそんな風に成長してくれるの？」という私の心配をよそに、次々とたくましい姿を見せてくれていた子どもたち。子どもを信頼して支えていけば良いんだと思えるようになり、この残り一か月でさらにどんな成長を見せてくれて、どんな学びがあるんだろう、卒園は（私が）寂しいけれど、残りの時間を大切に味わおう！と思っていた矢先の出来事でした。ママ友とのメールの手も震え、貧血のようになって座り込み、子どもたちに心配される始末。これではいけない、私がしっかりして子どもと向き合わなくてはとも思っても、受け止められない気持ちで混乱が収まりませんでした。それからしばらく喪失感がどうしようもなくありましたが、みんなとつながれるお祈りの時間を頂き、子どもたちの前向きな姿に救われ、それでも（子どもの前では言えない）やるせない気持ちはママ友とメールで分かち合ううちに、少しずつ落ち着くことが出来ました。失ったものに思いを巡らすと本当に残念でありませんが、それほど大切な時間を今まで得ていたのだと改めて気づかされ、感謝の気持ちにもなりました。私とは比べ物にならない苦しみや悲しみを受けている人に対して何もできない無力感も湧きますが、祈ることはできるのだと知り、人のために祈りつつ、自分が慰められているとも感じました。先行きの不安に落ち込んだり、親子でぶつかり合い感情的になってしまうことも多々ありますが、うまくいかないときこそ前を向くこと、本当に難しいですが肝に銘じたいです。怒りや悲しみといった負の感情は、これからどうしていくのか、どうしていきたいのかという強いエネルギーに変えることができ、それはその人の可能性でもあるそうです。読ませていただいた分かち合いのお手紙には、自分の感情を責めている方がたくさんおられました。私もそうなのですが、自分を責めすぎず、まだまだなあと反省しつつも今の自分を受け止めて、何か価値あるものに向けて行きたいと思います。この生活の中で気を付けなければいけないと感じることがありました。子どもが微熱を出したときに、「コロナで死んじゃわない？」とききりに聞くのです。想像以上に不安を抱えていたことを知り、不安をあおるニュースなどを不用意に流したままにしないこと、自分でもわからないことばかりでも、子どもの疑問には自分なりの考えを丁寧に伝えることが大切だと感じました。親の祈りは本当に大切なことを教えてくれます。内弁慶で、外に出られなくて困るより、家で完結してしまうことが心配な我が子です。家では得られない生の体験、先生やお友達との関わり合い、やはりオンラインではできないことがあり、特に幼児期にとってはかけがえのない時間だと思います。今まで通りに戻るとはなかなか叶わないかもしれませんが、子どもたちが大切な今を得られるように、祈るばかりです。このお手紙も、自分の気持ちを整理する機会となりました。ありがとうございました。

(園長より)

今日は、3月に卒園されたお母様方です。3月の休園は本当に苦しかったですね。私も今までこんな気持ちで卒園式を迎えたこ

とがありませんでした。ただ、卒園式の子どもたちは、素晴らしかったです。堂々と自分の歩みで入堂し、きちんと前を見ていました。今まで培ってきたものは、そう簡単には消えない、そう思えたのも事実です。3月2日の日に子どもたちに「明日から幼稚園はお休みになります。」と伝えなければならなかった前日、家に帰ってからもこのことが離れず、幼稚園に來れなくなって子どもはどうなるのだろう…何を楽しみに過ごすのだろう…どんな一日を過ごすのだろう…と考えていました。毎日していたお祈りも忘れてしまうのではないだろうか？お祈り？お風呂の中で、閃いたのです！この瞬間、私の力ではないものを感じました。毎日ホームページにお祈りを載せてみよう…時間を決めて…そうすれば、少し、リズムができるかもしれない…離れていても同じことができるお祈り！これは、子どもたちみんなできる！私にはこれしか思いつかず、でも我ながら、よく思いついたな…とも思って…次の日、子どもたちと約束しました。「毎日、9時になったら、パソコンか、お母さんの携帯を見て、お祈りを一緒にしよう！お祈りはどこでもできる！神さまはいつもいてくださるよ！お祈りでつながろう！」と。ただ、あの時、こんなに長い期間になるとは、思ってもいなかったのですが。子どもはきっと、毎日お祈りしよう！といったら、お休みの日もパソコンや携帯をみるかな…と思いました。それが、子どもかな？私の知っている子どもは、継続することを好み、毎日コツコツと歩む律儀でまじめな人…そんな人のためには、絶対に一日も休みたくないと思いました。これは、私にできるたった一つの事だったのです。この色々な気持ちでパソコンに向かい、「せいぼようちえんのみなさん！おはようございます！」と打ち込みながら、青空を見て神さまに包まれていると感じ、吹く風に神さまが近くを通られたように感じ、比叡山を見てはみんなの事を思い、咲く花を見たらみんなにも伝えたくて…、誰もまだいない朝の一人の時間、自分の心を調べ、自分の祈りをし、そして子どもたちとの時間を想像し、耐えることができました。私が、皆さんに支えられていました。いつもお祈りをしてくださって、ありがとうございました。いつも楽しみにしてくださってありがとうございました。そして、心を園にむけてくださり、繋がってくださってありがとうございました。

卒園された皆様、また、小学校でのご様子教えてくださいね！きっとあの子たちは大丈夫です！

在園の皆様、多くの分かち合い、心より感謝申し上げます。明日からの日々も、子どもたちと共に、ご一緒に歩いていきましょう！どんなことがあっても、私たちは大丈夫ですよ！

最後にいつも子育て講座で祈っている親の祈りを分かち合いましょう。

【親のいのり】

神さま、もっと良い私にしてください。

子どもの言うことを聴いてやり、心の疑問に親切に答え、子どもをよく理解する私にしてください。

理由なく子どもの心を傷つけることのないように、お助けください。

子どもの失敗を笑ったりせず、子どもの小さい間違いには目を閉じて、

良い所を見させてください。

良い所を心から褒めてやり、伸ばしてやることができますように。

大人の判断や習慣で子どもを縛ることのないように、子どもが自分で判断して、自分で正しく行動していけるように、導く知恵をお与えください。

感情的に叱るのではなく、正しく注意してやれますように。

道理にかなった希望は、できるだけかなえてやり、彼らのためにならないことは、やめさせることができますように。

どうか、私から意地悪な気持ちを取り去ってください。

私が間違った時には、きちんと謝る勇気をお与えください。

いつも穏やかな広い心をお与えください。

子どもと一緒に成長させてください。

子どもも私も、あなたから生かされて愛されていることを知り、他の人々の喜びとなることができますように。

アーメン。

【追記】

今日届いたメールです。Cさんの新しいお母様と海外からのメールです。遠い所からも心を繋げてくださりありがとうございました。○いつもお世話になりありがとうございます。前例のない状況において最大限の配慮を尽くして下さっているご対応に感謝致します。また、土日含む日々のホームページの更新も毎日拝読させて頂いております。担任の高橋先生からのお電話やお手紙は、Rとても喜んでおりました。大変遅くなりましたが、今の気持ちをお伝えさせて頂きたいと思い、お手紙を書かせて頂きます。この3カ月間、思い描いていた新生活を送れないことへの不安、兄妹喧嘩へのイライラ・色々な気持ちになりましたが、永遠に続くものでもない現実を乗り越えるしかない！と開き直るところから自粛生活をスタートさせました。子供達に対して1日の終わりに「今日も大きな怪我なく過ごせて良かったね！」と言ったり、ふとした日常の中で「こうやって手も足も動いてご飯が食べられることはすごい幸せなんだよ〜！」など当たり前の事を声に出して伝えることで私自身も冷静になれたり前向きになれたように思います。Rは、急に兄がずっと家にいる生活になり、私を一人占めできる時間がなくなったからなのか、自己主張が強くなっている様子です。また、一人で行っていたトイレにも「一緒についてきてほしい」と誘われたり、白ご飯を手で食べたり、靴下を履かせてほしいなどまるで赤ちゃん返りのようで、この状態で園生活をスタートさせるのが不安で仕方ありません。今のRの気持ちに寄り添ってあげることが出来ていない私の対応が悪いからなのだろうか・・・と自分を責めてしまいます。一方、幼稚園へ通う事はとても楽しみにしている様子で、クラスが発表されて以来、「（本来はピンクが大好きなのに）つき組さんだから黄色がいい！」と言ったり、ビーズで月の形を作ったり、自分のクラスへの愛着がかなり湧いているように感じます。私自身も聖母幼稚園のお母さんとして色々な事を学ばせて頂ける事をとても楽しみにしています。今回、このような分かち合いの機会を設けてくださったことで他のお母様と繋がれたことは本当に心強く、皆様それぞれが子供達に寄り添われているご様子に励まされました。また、今後も親子共々成長していきたいと思っておりますので宜しくお願い致します。

○園長先生、シスター、聖母幼稚園の先生方、ご無沙汰しております。日本は非常事態宣言が解除になり、まもなく無事通常保育に戻られるところでしょうか。当地は4月上旬からソフトロックダウンのような状況になっておりまして、小学校は春休みのまま休校が続いていたところ、6月から週2日程度の登校が開始されるようです。しかし友人知人に会うことは法律で禁じられ、社会生活が著しく制限されている状況は変わりなく続くようです。2月末に休園になった初日、友人たちから「園長先生のお言葉がホームページにアップされたよ！」と伺い、毎日欠かさず、寝る前に子ども達と拝読させて頂き、お祈りさせて頂いております（朝のご挨拶等は適宜変更させて頂いております）。園の様子やお仕事の道具など、子ども達が毎晩喜んで懐かしく拝見しております。分かち合いは拝読させて頂いていたのですが、5月の園便りがホームページにも掲載されていたことに本日気づきまして、まるであの子育て講座の席で園長先生からお話を直接伺っているような気持ちで嬉しく拝読させて頂き、ご連絡差し上げました。そして「小さな幸せ」のお話を拝読させて頂き、2年前の3月の転居前、最後に出席した子育て講座の際に、涙で一杯で歌うことの出来なかったことを思い出しました。「小さな幸せ」は私にとって特別な歌です。子ども達が在園の頃から「小さな幸せ」の楽譜は、私の手帳に小さく折りたたんで入れてあり、今でも持ち歩いているので、もうずいぶん古びています。時々そつとのぞいていますが、最近はその余裕がありませんでした。私はソフトロックダウン開始から1か月弱は出勤を控えることになり、在宅出来ていたのですが、5月から当地のルールが変わるため（一応医療従事者です）一部仕事に戻らなければならないことが決まり、4月末は非常に動揺していた時期だったのか、見逃してしまっていたことをとても悔やんでおります。当地の小学校は入学式がないままでしたので、新小1の息子は、どうしてもまだ幼稚園生の気持ちから抜け出せないまま、オンライン上に課題の掲示される自宅学習を継続しなければならず、どうしても親の手を必要としています。それでも課題が少ないのですぐに終わり、その後はお米を洗ったり、野菜を切ったり、食事の準備を手伝ったり、お菓子作りに挑戦しています。一部業務を再開しても、私の在宅時間がここまで長かったことはなく、息子は家での活動に十分な時間を費やして過ごすことが出来ています。皆様が仰っていたように、どうしても近くにいると姉弟けんかが起こってしまうので、新小4になった娘の方は自室で勉強するようにしているのですが、自宅学習のモチベーションが上がらず、気づいたら自室で本を読んでいたりと、工作など。「弟だけ課題が少なくてずい」と言い、先に課題の終わった弟のレゴ遊び（けんかを挟みつつ）やテレビタイムに合流してしまい夜を迎え、泣きながら深夜まで課題を行う日々が最近まで続いていました。今はゲームをするために夕方までには課題を終わらせる、というモチベーションで過ごすようにはなっているのですが、些細なことで癇癪を起こし、教材を破ってしまうことも。一度癇癪を起こすと気持ちを立て直すのに時間が掛かってしまっています。私自身も、2人の自宅

学習とオンライン習い事のフォロー、在宅・出勤しての業務スケジュールの調整、日々の家事、と一見時間があるようでもマルチタスクでいることに余裕がなく、娘が癇癢を起すといら立ちが募り、つい叱ってしまっています。こういう時は園便りのお言葉にあるように「子どもといて辛い時、大声で叫びそうになった時、少し黙って、できたら深呼吸。」した方がよいと分かってはいるつもりなのですが、それが出来るのは何回かに 1 回かだけになってしまいます。反省しつつも、その繰り返しです。癇癢を起こし、荒れる娘を目の前にすると、園長先生の仰る「子どもの悪いところばかり気になっている」状態になってしまっているので、「子どもを静かに観察してみてください」というお言葉、大切にしたいと思います。当地の政府の対応は、日本よりかなり慎重なため、通常通りの生活に戻るにはまだ数か月かかると思われますが、今日から子ども達と毎朝「小さな幸せ」を歌ってから過ごし、神様に祈り続けたいと思います。長文になり、失礼しました。コロナウイルスの流行が終息し、子ども達が元気に登園・登校できるようになる日が来ることを願っております。先生方もご心労いばかりかと思いますが、くれぐれもご自愛ください。